

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 02-039838

(43)Date of publication of application : 08.02.1990

(51)Int.Cl.

A01K 87/08

(21)Application number : 63-189835

(71)Applicant : AAKISUTORIARU:KK

(22)Date of filing : 29.07.1988

(72)Inventor : HANEDA HISATSUGU

(54) GRIP OF FISHING ROD

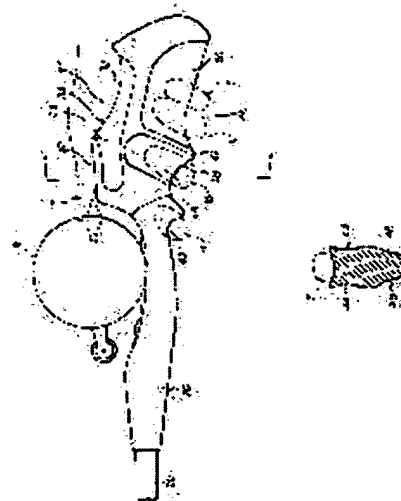
(57)Abstract:

PURPOSE: To stably perform thumb.control by engaging and holding the upper and lower parts of a grip while providing a prescribed interval between the thumb and other fingers.

CONSTITUTION: A grip 26 is inserted and fixed into the other end of a reel mounting rod 20 having the end at hand of a rod 22 inserted and fixed to the tip part thereof.

The grip 26 is further has the upper engaging part 34 equipped with the first engaging part 30 engaged with the downward bulb of the thumb (T), the second engaging part 32 engaged with a part (T') near the root part of the thumb of a palm and the lower part 38 engaging with the bulbs of the middle finger (B), medical finger (C) and little finger (D) and parts near the root

parts of the fingers. The first engaging part 30 is raised relatively to the second engaging part 32 and recessed parts 44 are provided from both sides of the engaging part 30 to the engaging part 32. The right recessed part is designed to receive a forefinger (A) and the left recessed part is designed to receive the thumb (T) after completing thumb.control. A protrusion 46 is further provided near the tip of the lower part 38 and recessed parts 48 and 50 are formed for engaging with the middle finger (B) in the front part thereof and the medical finger (C) and little finger (D) formed in the back thereof.



THIS PAGE BLANK (USPTO)

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

THIS PAGE BLANK (USPTO)

⑫ 公開特許公報(A) 平2-39838

⑤Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬公開 平成2年(1990)2月8日

A 01 K 87/08

6804-2B A 01 K 87/00

D

審査請求 有 請求項の数 3 (全5頁)

⑭発明の名称 釣竿のグリップ

⑰特 願 昭63-189835

⑱出 願 昭63(1988)7月29日

⑲発 明 者 羽 田 久 嗣 東京都渋谷区代官山町20-23 有限会社アーキストリアル
内

⑳出 願 人 有限会社アーキストリアル 東京都渋谷区代官山町20-23

㉑代 理 人 弁理士 湯浅 恭三 外4名

明 細 書

1 [発明の名称]

釣竿のグリップ

2 [特許請求の範囲]

1. 手元端部にグリップが設けられ、該グリップの先端に隣接してリールが設定される形式の釣竿におけるグリップであって、

手の親指の腹を下向きにすると共に、他の指を内側に曲げ、その第1及び第2関節の間の腹をほぼ上向きにし、該他の指の上向きにされた先端を親指並びに掌における親指の根元付近部分から離して当該グリップを握った状態で、

上記他の指の腹並びに掌の上記他の指の根元付近の部分によって係合把持される下部部分と、

下部部分上に設けられ、上記親指によって係合される係合部分を含む上部部分とを有し、

上部部分の前縁は、上記係合部分上に係合された親指の先端付近部分が該前縁から前方に突出して、上記リールに連するような位置に設定されていることを特徴とする釣竿のグリップ。

2. 上記上部部分が掌における親指の根元付近部分によって係合される第2の係合部分を含んでおり、親指によって係合される上記係合部分が、第2の係合部分よりも隆起してなる特許請求の範囲第1項に記載の釣竿のグリップ。

3. 上記親指によって係合される上記係合部分の上面が横断面で見て平坦か、若しくは、凹状とされていることを特徴とする特許請求の範囲第1項若しくは第2項に記載の釣竿のグリップ。

3 [発明の詳細な説明]

技術分野

本発明は釣竿のグリップに係り、特に、釣竿の手元端部にグリップが設けられ、該グリップの先端に隣接してリールが設定されるようにした形式の釣竿のグリップに関する。

技術的背景

上記形式の釣竿は、概ね、第3図に示す如き形態を有している。

すなわち、竿10の手元端部に同竿のほぼ延長方向に延びるリール取付ロッド12が連結され、

該ロッドの端部に横断面がほぼ円形、若しくは、楕円形とされたグリップ14が取り付けられている。

そして、このようなグリップは、図示のように、親指の腹を下向きとし、他の指を内側に折り曲げて、その第1及び第2関節の間の腹がほぼ上向きとした状態で該グリップを握った場合、上記他の指の腹並びに掌におけるそれら指の根元付近部分によって当該グリップの底部分及び両側部分を係合把持されるようになっているが、親指Tの腹並びに掌における親指の根元付近部分T'とグリップの上面付近G'との間には間隙が生じるようなものとなっている。

親指を上記の如き状態でグリップを握るのは、釣竿を後方から前方に振って餌餌を飛ばす時に、親指の先端で、回転するリールに接触してその回転をコントロールし、該リールから糸が出すぎるのを防止する、いわゆるサム・コントロールを行うときである。

従って、グリップの把持を上記の如き状態で行っ

ブであって、

手の親指の腹を下向きにすると共に、他の指を内側に曲げ、その第1及び第2関節の間の腹をほぼ上向きにし、該他の指の上向きにされた先端を親指並びに掌における親指の根元付近部分から離して当該グリップを握った状態で、

上記他の指の腹並びに掌の上記他の指の根元付近の部分によって係合把持される下部部分と、

下部部分上に設定され、上記親指によって係合される係合部分を含む上部部分とを有し、

上部部分の前縁は、上記係合部分上に係合された親指の先端付近部分が該前縁から前方に突出して、上記リールに達するような位置に設定されていることを特徴としている。

上部部分には、親指によって係合される上記係合部分の外に、掌における親指の根元付近部分によって係合される第2の係合部分を設けることが出来る。

また、親指によって係合される上記係合部分は、その上面が平坦若しくは凹状の横断面とすること

ていると、その把持力が十分でなく、特にグリップを握った手が濡れた状態で釣竿を前方に振った際に、グリップが手から滑り抜けてしまう虞れがある。そのような欠点を解消するために、図示のように、グリップの先端部分に人指し指で係止されるようにした突起Pが設けられたものがあるが、このようなグリップでも、つぎのような点で問題がある。

すなわち、前述のように、親指T並びに掌における親指の根元付近部分T'はグリップから離れているので、不安定な状態にあり、従って、上述したサム・コントロールを安定した状態で行うのが困難である。

発明の目的

本発明は、上記の如き問題を解消したグリップを提供することを目的としている。

発明の構成

すなわち、本発明に係るグリップは、手元端部にグリップが設けられ、該グリップの先端に隣接してリールが設定される形式の釣竿におけるグリップ

が出来る。

発明の作用及び効果

本発明に係るグリップは、以上の如き構成を有するものであり、使用時には、親指及び掌における親指の根元付近部分と、親指以外の指並びに掌におけるそれら指の根元付近部分とを、上下方向で相互に対向し離隔した状態で、当該グリップの上部部分並びに下部部分を挟着把持する。従って、この状態で力を入れれば、従来のグリップの親指以外の指だけで把持していた場合に比べて、はるかに大きな力で把持することが出来、従って、釣竿を後方から前方に振るときに、グリップが手から抜け出るということを防止することが出来る。

更に、親指はグリップの上部部分の上に載せられるので、サム・コントロールが安定して行うことが出来る。

実施例

以下、本発明を添付図面の第1図及び第2図に示した実施例に基づき詳細に説明する。

第1図において、20はリール取付ロッドであ

り、その先端(第1図における左端)部分内には竿22の手元端部が挿入固定されており、他端部分は本発明に係るグリップ26に挿入固定されている。

該グリップは、親指Tの下向きにされた腹によって係合される第1係合部分30と掌における親指の根元付近部分T'によって係合される第2係合部分32とを備える上部係合部分34、並びに、親指以外の内側に折り曲げられた指であって、上向きにされた先端が上記親指及び掌における親指の根元付近部分から一定間隔離された指、図示の実施例においては、特に中指B、薬指C及び小指Dの腹、並びに掌におけるそれら指の根元付近部分によって係合される下部部分38とを有している。(尚、図示の実施例においては、人指し指Aは、リール取付ロッドに設けられている凹部40に係合されるようになっている。)

親指Tによって係合される第1の係合部分は、掌における親指の根元付近部分T'によって係合される第2の係合部分32に対して相対的に隆起

のグリップに比べて、かなり大きな力で把持出来る。更に、親指は第1の係合部分上に載せられているので、サム・コントロールを行うのに安定した状態で行うことが出来る。尚、上記実施例においては、第1係合部分の上面が凹状にされたものを示したが、ほぼ平坦にすれば、その上に載せた親指を安定して支持することが出来る。

4 [図面の簡単な説明]

第1図は、本発明に係るグリップを備えた釣竿の手元部分の側面図、

第2図は、第1図のII-II線断面図、

第3図は、従来の釣竿の側面図である。

26 --- グリップ、

30 --- 第1係合部分、

32 --- 第2係合部分、

34 --- 上部部分、

38 --- 下部部分、

T --- 親指、

T' --- 親指の根元付近部分、

A --- 人指し指、

しており、該第2係合部分は第1係合部分に向けて上方に傾斜しており、第1の係合部分の上面は第2図に示すように凹状断面とされている。また第1の係合部分の前縁30'は第1の係合部分に係合した親指の先端がリールRの方に突出して、該リールの回転を制御出来る位置に設定されている。

第1の係合部分30の両側部分から第2の係合部分32にかけて凹所44が設けられており、第2図で見て、右側の凹所は人指し指を、また、左側の凹所はサム・コントロールの終わった親指を受け入れるようになっている。

下部部分38は、その先端近くに、下方に向かう突起46が設けられており、その前方部分に中指Bが、後方部分に薬指C及び小指Dに係合される凹所48、50が形成されている。

上記実施例に係るグリップを用いれば、親指(それに対応する掌の部分)と他の指との間に一定の間隔あけながら、それぞれ、当該グリップの上部部分と下部部分とを係合把持出来、従って、従来

B --- 中指、

C --- 薬指、

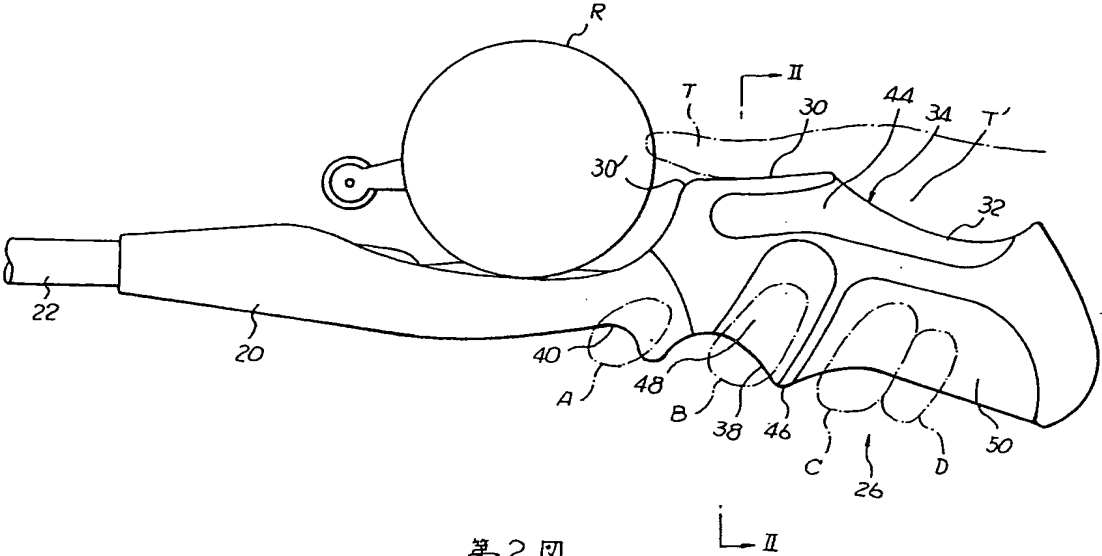
D --- 小指。

特許出願人 有限会社 アーキストリアル

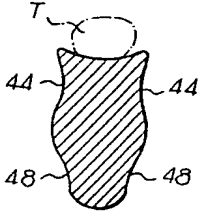
代理人 弁理士 湯 浅 恭

(外4名)

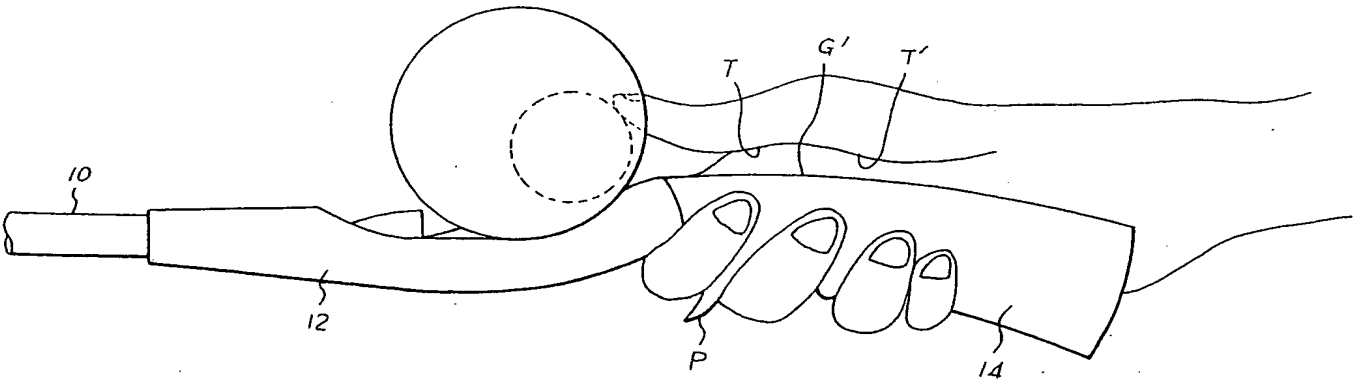
第1圖



第2圖



第3圖



手 続 補 正

(別 紙)

平成元年6月27日

特許庁長官 吉 田 文 毅 殿



1. 事件の表示

昭和63年特許願第189835号

2. 発明の名称

釣竿のグリップ

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所

名 称 有限会社 アーキストリアル

4. 代 理 人

住 所 東京都千代田区大手町二丁目1番1号
新大手町ビル206区
電話(170)-5541~6

氏 名 (1710) 丹理士 湯 浅 恭



5. 補正の対象

明細書の「特許請求の範囲」の欄

6. 補正の内容

別紙の通り



特許請求の範囲の記載を以下の通り訂正する。

「1. 手元端部にグリップ部が設けられ、該グリップ部の先端に隣接してリールが設定される形式の釣竿におけるグリップであって、

手の親指の腹を下向きにすると共に、他の指を内側に曲げ、その第1及び第2関節の間の腹をほぼ上向きにし、該他の指の上向きにされた先端を親指並びに掌における親指の根元付近部分から離して当該グリップを握った状態で、

上記他の指の腹並びに掌の上記他の指の根元付近の部分によって係合把持される下部部分と、

下部部分上に設けられ、上記親指によって係合される係合部分を含む上部部分とを有し、

上部部分の前縁は、上記係合部分上に係合された親指の先端付近部分が該前縁から前方に突出して、上記リールに達するような位置に設定されていることを特徴とする釣竿のグリップ。

2. 上記上部部分が掌における親指の根元付近部分によって係合される第2の係合部分を含んで

おり、親指によって係合される上記係合部分が、第2の係合部分よりも隆起してなる特許請求の範囲第1項に記載の釣竿のグリップ。

3. 上記親指によって係合される上記係合部分の上面が横断面で見て平坦か、若しくは、凹状とされていることを特徴とする特許請求の範囲第1項若しくは第2項に記載の釣竿のグリップ。」

以 上

THIS PAGE BLANK (USPTO)